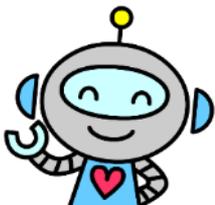


palstep活動報告

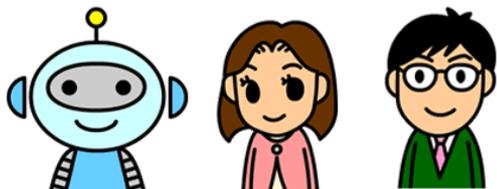


palstepについて

SBプレイヤーズでは、サステナビリティ活動の一環として、学校に行くこと、教室で授業を受けることが難しい児童・生徒を対象にeラーニング学習支援サービス「palstep」を無償提供し、教育機会確保の一助となるよう取り組んでまいりました。



【学習サポートキャラクター】



特長1 コミュニケーションボットがサポート

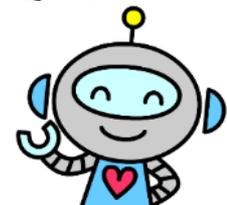
オリジナルキャラクターが1日の目標や取り組むべき問題などを楽しくナビゲートするほか、生活リズムや趣味嗜好の把握、いじめ検知等を自然な会話の中から行います。

特長2 遠隔でのコミュニケーション機能

先生と生徒、先生と保護者間で簡単なメッセージのやりとりができるほか、保護者はその日の登校予定や体調などの情報を負担の少ないアンケート形式で先生に報告することができます。

特長3 個に応じた学習支援

小学校・中学校それぞれの学習を学年に捉われず一貫して学ぶ事ができるテキストを採用。※学習教材は学研のやさしくまるごとシリーズを元に作成
学習の遅れを気にせず、生徒個々にあった目標でマイペースに学習を進める事ができます。

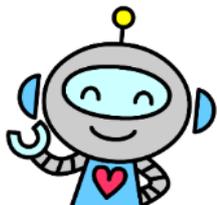


palstep提供数

2019年度から2022年度の4年間で、
北海道から九州・沖縄まで多くの皆様にご利用いただきました。

提供学習者数
延べ約8.3万人

学校等提供箇所
延べ約1700箇所



活用事例 case 1

入院中の生徒の出席判定(首都圏/中学校)

長期欠席の生徒うち、入院中の生徒への学習サポートを行った例です。

01. 背景

入院中でも継続して学習をサポート

- ・病弱にて登校ができない
- ・入院中のリモート授業でのサポートは、院内の通信環境や病室環境に左右され十分にできない



02. 評価方法

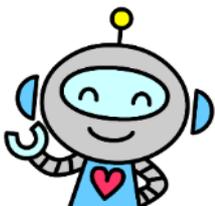
2020年度から出席判定に

- ・「いつ」「どの教材で」「どのくらい」学習をしたのか、palstepのレポート機能を使って学習履歴のデータを確認
- ・学習履歴のデータを校内の関係者間で共有し、入院中のpalstepでの学習日 を出席日として判定とした

03. palstep評価結果

学習履歴が出席判定されることが学習意欲の継続に寄与

- ・palstepのレポート機能では、「いつ」「どの教材で」つまづいたのかを確認することができ、つまづいたポイントはリモート授業などでサポートをするなど、適切な学習支援を行うことができた
- ・出席判定は入院中での学習の励みになり、学習への意欲の継続に繋がった



教育委員会で各校の不登校対策を支援 (九州/教育委員会)

01. 背景

ICTを活用した各校の不登校対策の強化を図りたい

- ・ICT環境は概ね整備されており、有効なアプリの検討が必要
- ・不登校対策用としてのツールを、標準のICT環境にプラスアルファで用意することが決定
- ・学校や教職員の負担を増やさないよう、利用は希望校のみとする

02. 実施の流れ

教育委員会主導のもと運用整備

- ・実現したいことや運用フローを明確にし、導入するツールを検討
- ・下記が当てはまるpalstepの導入を決め、各校に情報を展開

実現したいこと

- 一教室では学びにくい、学校に登校できない子どもたちに学習の機会を保障できる
- 一児童・生徒が自分のペースで学習をすることができる
- 一学び残している内容がある場合、遡って学習できる
- 一児童・生徒の学習状況を把握でき、担任（職員）の負担軽減に繋がる

- ・利用を希望する学校を募集し
- ・教職員がスムーズに利用開始できるよう、遠隔利用説明会を開催し各校から担当教員の参加を調整

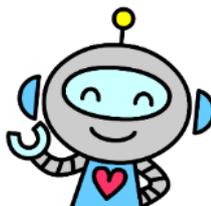
03. palstep評価結果

児童・生徒個々のペースに合わせた支援が可能に

- ・児童・生徒個々により支援の仕方や教材の向き不向きがあるため、ソリューションを複数用意できることで教職員の安心に繋がった

また、希望校のみでの導入であるため教職員に負担を感じさせることなく運用できた

- ・学習する単元を、児童・生徒のペースに合わせて設定できるため適切な学習支援計画が立てられたという声があった
- ・費用負担がないという点で予算調整を行うことなくすぐに活用をスタートすることができた



活用事例 case3

学習を通じたコミュニケーション (九州/小学校)



01. 背景

教室で学べずなかなか学習に向き合えない

- ・児童への個別支援の意識は高く、通級指導教室や特別支援学級が設置されている学校
- ・palstepに関心を持った教員が中心となり、校内で教員向けにpalstep説明会を実施
- ・不登校気味でなかなか学習に向き合えない児童へpalstepの活用を開始
- ・学習意欲が低く、普通のプリントだとなかなか学習ができない

02. 活用方法

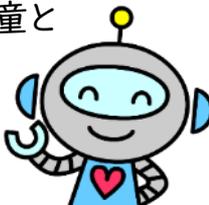
クイズ形式の簡単なオリジナル教材を作成し学習の積み上げ

- ・学習に抵抗のある児童へpalstepで個別の学習を設定
- ・教員がpalstepのオリジナル教材作成機能を活用
- ・palstepに搭載されている国語や算数の学習にすぐに取り組めない児童へ、プリントや簡単な学習クイズをpalstepで配信
- ・メッセージ機能を持ちいて児童とコミュニケーション

03. palstep導入結果

先生から発信される課題で楽しく学習し意欲向上

- ・先生がプリントや簡単な学習クイズを作成しpalstepで配信することで、子どもたちが楽しんで学習するように変化
- ・学習に関する質問が増加し、学習を通じたコミュニケーションが成立
- ・児童の学習意欲の高まりやコミュニケーションの増加を活用に取り組んだ教員も実感
- ・コロナ禍による急な臨時休校においても、児童とpalstepを通じたコミュニケーションで対応



児童生徒に寄り添う時間の確保 (東北／教育センター)

01. 背景

不登校要因の多様化、対応の複雑化

- ・学校現場の負担が増すなか、児童生徒の支援と共に教職員の働き方改革も必要
- ・不登校の児童生徒をはじめとした個に応じた学びの支援が必要
- ・担任が思うように時間が取れず、訪問や電話・手紙以外のコミュニケーション手段を模索
- ・不登校により学校との関係が絶たれてしまうという保護者の不安
- ・不登校児童生徒への支援について、学校全体で情報を共有し、皆で見守り支援する仕組みやシステムへの要望

02. 評価方法

研究部会においてpalstepを事前評価

- ・研究部会に所属する各学校の教職員によって学習者・保護者・教職員等のそれぞれの立場でpalstepを利用
- ・SBプレイヤーズによる利活用講習会や実際にpalstepを活用して支援を実施している教員の事例を研究



03. palstep評価結果

palstepの活用により教職員の児童生徒に寄り添う時間の確保が見込める

- ・palstepでの情報共有により、学校がチームとして機能し、支援が実現可能
- ・学校の管理下にあるメッセージ機能のやり取りにより、電話や手紙に寄らないコミュニケーションが可能
- ・支援に関わる教職員や関係者の限定したグループでのコミュニケーションとなるので、児童生徒にとって安心できるコミュニティとして機能
- ・palstepによる教務の情報化で児童生徒に寄り添う時間の確保が見込まれ、教育の質が向上
- ・2020年度より教育センターが中心となり、palstepの利用を希望する学校での導入を開始

